

3・27決起で大巾賃上げ獲得しよう

三里塚シリーズ3

「日本の賃金は世界一」
などとてもない

十・一九株式大暴落で世界大恐慌の到来を思い知らされた政府・財界は、空然の円高ドル安、貿易黒字にもかかわらず、年末年始を通じて「八八春闘は賃上げゼロ、定昇のみ」をうちだし、労働者の生活破壊を狙ってきた。「日本の名目賃金は世界一高い」「春闘は時代おくれ」と春闘破壊にやっきとなっているのである。

だが、本当に日本の労働者は豊かなのか？ 誰もが実感しているとおり、断じてそうではない。低賃金、長時間労働、ウサギ小屋、エンゲル係数の高さ、過度の超勤依存、年間休日少なさ、加えて雇用不安と、世界一の物価高のなかで実態は悲しいばかりだ。

日本の資本家は、円高輸入差益、貿易黒字、ダンプ輸出でポロ儲けし、その上に国家財政赤字一五〇兆円、国鉄赤字三八兆円を労働者の犠牲におしつけて、肥え太っているのだ。資本家・企業は儲けている。労働者はまずしい。これが真実である。労働者が切実に賃上げを要求しているのは生活防衛のためであって、それなしには生きていけないからにほかならない。労働者は名目賃金で生きているわけではない。実質賃金で生きているのだ。「全民労連春闘」をうち砕き、大幅賃上げ獲得、春闘勝利をかちとろう。

春闘破壊の先兵 動労革マル・鉄道労連

動労革マル松崎がぶち上げた「賃上げ三年間がまん」「ただ働きしよう」は、実は、日経連・財界が叫びたてていることそのものである。次の発言を見てもらいたい。

「黒字企業も赤字企業も横並びで賃上げする方式はそろそろやめるべきだ。ベアは三年に一度くらの割合で見直せばいい」（経済同友会石原・一月五日）「日本は人間の論理、横ならび賃上げ春闘は時代おくれ」（日経連「労働問題研究会報告・一月二〇日」）：「働いただけ賃金よこせは西洋的労資関係、日本はただ働きする」との松崎発言を見よ！ 加えて、「大東亜共栄圏」「米経

日刊
動労千葉

1988.3.18

No. 2780

三・二七は春闘の突破口

済圏に対し円経済圏が必要」発言も、日経連「労働問題研究会報告」の「アメリカ依存経済から脱却した真の先進国づくり、新たな経済体制を」との報告そっくりそのままである。

全民労連ですら「（今春闘に敗けては）『連合』を結成した意味がない。存在価値すら問われている」と賃上げ要求するなかで、三年がまん、ただ働きなど断じて許すわけにはいかない。

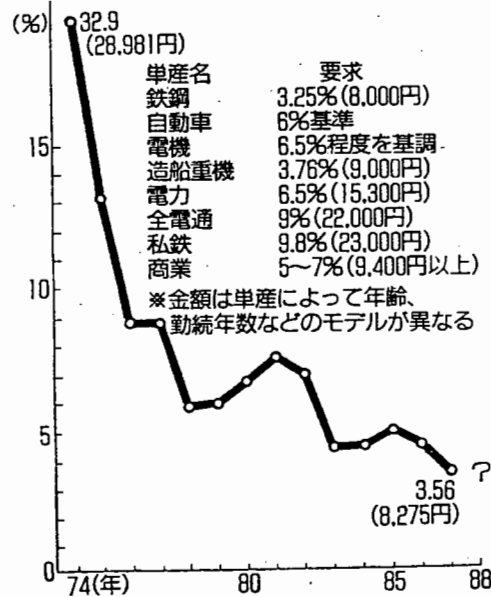
「滅私奉公」「産業報国」 を許さず戦争政策をうち砕こう

政府・財界・革マル松崎がこで言っていることは、「ほしがりません勝つまでは」ということである。資本主義の末期状況、戦争に行きつかざるを得ない危機があらわとなるなかで、労働者に帝国主義どおしの争闘戦、けおとしあい勝ち、植民地主義諸国への侵略政治の片棒をかつぐことを確認させ、それなしには賃上げもだめだ、というのである。つまり、春闘ですら、日帝の軍事大国产化、強権的支配体制確立の戦争政策を承認するかどうかがつきつけられているのである。

そして、動労革マル・鉄道労連、ハそして一歩おくれで全民労連も「滅私奉公」「産業報国」「侵略翼賛」「スト撲滅」を組合綱領としたのである。

すでに、事態は鮮明である。動労革マル・鉄道労連、全民労連と全面的に対決し、闘り労働運動の旗を守りとおし、日帝の戦争政策と闘わない限り、労働者は生きていくこともできないのである。全力で、反戦・反権力の皆、三・二七三里塚へ！

春闘妥結率の推移と今春闘の要求



毎年連敗の春闘、春闘も三里塚のよう

に闘わなくては絶対に勝てない！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二〇七